

## 長崎県における赤潮発生状況

丸田 肇（長崎県総合水産試験場環境養殖科）

### 1) 昭和52年以前

大正5年より昭和52年までの62年間に確認されたものでは80件余り、うち漁業被害を伴ったものは14件。

被害の最高は、昭和40年夏季の大村湾で発生した*Gymnodinium mikimotoi*によるもので、魚介類に7億円余りの被害があった。

### 2) 昭和53年以降

昭和53年以降、統計的に記録を取り始めるようになってからは、発生件数は708件である。

赤潮の構成種別では、*Mesodinium rubrum*が147件、*Gymnodinium*属が134件（うち*G. mikimotoi*が57件）、*Prorocentrum*属が90件、*Noctiluca scintillans*が75件等が主なものである。

漁業被害を伴ったものは44件で、被害額の大きいものは、平成11年8月の伊万里湾（*Cochlodinium polykrikoides*）で、養殖のマダイ・ハマチ・トラフグを中心に7億6千万円、平成2年に橘湾（*Chattonella antiqua*）で約4億円、平成3年に伊万里湾（*G. mikimotoi*）で約1億円、平成4年に有明海（*C. antiqua*）で6千5百万円である。

